登場人物

OP　街に住む人々

1　男（女）

2　葉子　太陽

3　長靴を履いた女　帽子を被った女　手袋をはめた女　腹巻を巻いた女

博士　怪物

4　白いワンピースの女

5　猫を飼ってた女

6　ボートに乗る男　湖畔で踊る少女

7　モテる男　男を奪い合う女たち

8　彼氏　彼女

9　棒を持ってくる人たち　1番、2番、3番

10　葉子　太陽

11　怪物のセリフを言う男　清掃員たち

12　渋谷で飛び跳ねる女

13　女

ED　独りぼっちの怪物

■OP

そこはどこかなんでもある世界。街かもしれない。機械の動く音が聞こえる。
そこに住む人々。夜が明ける。昼と夜。ピンクとブルー。人々が少しづつ動き始める。眠いのか不器用な動き。彼らは必死に体を動かそうとする。生きようとする。生きているから動くしかない。生まれたから動くしかない。誰も止まろうとしない。全員疲れてきたところで、死ねねーとか言い始める。それでも誰も動くのをやめない。全員ずっと、ずっと、ずっと動き続ける

『Frankenstain』

■1

男（女）がいる。

男（女）一昨年の秋なんですけど、バイト終わって家に帰ったら、父親が首吊って死んでて。その1時間前まで半額のシールを貼るのに一生懸命になってたから、最初、天井にぶら下がっているのが本当に父親なのかよくわかんなくて。なんか普通に冷凍庫のハーゲンダッツとか食べようとしちゃってて。でも、そのハーゲンダッツに霜がついてて。それを触ったら、何だか急に怖くなってきて、すぐに救急車を呼びました
母はその日、昔の職場の友達とディズニーランドに行ってたんで、病院についてから電話したんですけど。そろそろ最寄りの駅までつくよ～なんて言ってて。お土産にプーさんのポップコーンとミッキーのチョコ買ったよ～なんて言って。それ聞いたら、何かすごく腹が立ってきて。なんて言ったかは覚えてないですけど、すごい怒鳴っちゃいました。自分だってハーゲンダッツ食べようとしてたくせに
でも、一番かわいそうなのは母だったんですよ。だって、自分の夫が死んだ日に、遊園地でポップコーンとチョコ買って、遊び回ってたんですよ？ただ単純に。なんの悪気もなく。
母は父のこと多分普通に好きだったんだと思います。よくあるじゃないですか、長年連れ添ってきて、もう愛は冷めてた、とか。でも、そんなことなくて。ただ

偶然、その日、友達とディズニーランドに行ってただけなんでで。そんな日に自殺する方が悪いじゃないですか。・・・でも、母はそれ以来、口が聞けなくなりました

間

なんで父が自殺したのかは、わかってません。嘘です。全部わかってます。警察とかが普通に調べてくれたんで。なんか単純なことでした。だから、恥ずかしいんで言いません。だって、子供にとって父親って結構でっかくないですか？なのに、こんな程度のことで死ぬんだなってことで、父は死にました。泣きましたね。死んだこともですけど、恥ずかしくて。自分が見てた背中ってこんなもんなんだなぁって

あんまり親戚づきあいとかなかったんで、身近な人が死ぬっていう経験、コレが初めてだったんですけど。なんかいきなり父が死んで、母が失語症になって・・・。でも、だからって、自分は別に死にたいとか思ってないし。そもそも、もう2年も前の話だし。今も毎晩冷えた惣菜に半額のシールとか貼りながら、普通に暮らしてます。なんかいろんな人のおかげで来年からは大学にも行けそうだし・・・。全然、死にたくないですね。普通に、生きてたいです

・・・まぁ、でも、たまに？父に会いたいなぁとか、思うこともありますけど。まぁ、思うだけですけど（照）

男（女）の後ろで父親が首を吊っている

■2

とあるアパートの一室。少し広めのLDKの部屋。葉子と太陽がいる。葉子はFUDGEみたいなおしゃれなファッション誌を読んでいる。太陽は壁に向かって逆立ちしている

葉子　太ちゃんさ、

太陽　ん～

葉子　死ぬ前に何食べたい？
太陽　死ぬ前？
葉子　最後の晩餐何がいい？
太陽　ん～あ～、大トロ？
葉子　大トロかぁ～
太陽　なんで？
葉子　なんとなく
太陽　葉ちゃんは？
葉子　あたしかぁ～

葉子、しばらく考える

太陽　葉ちゃん、まだ？
葉子　超考えてる
太陽　早くして
葉子　戻ればいいじゃん
太陽　葉ちゃんが言うまでやるって決めたから
葉子　何それ？

葉子、また考える
太陽、我慢できず崩れ落ちる

太陽　長いよ～
葉子　知らないよ
太陽　（特に痛めていない手首を執拗に気にしながら）で、決まった？
葉子　あれだね。ご飯とお味噌汁
太陽　え～、貧乏
葉子　こういうのがいいんだって、逆に
太陽　でも、俺たち付き合ってるじゃん
葉子　うん
太陽　最期の時も、たぶん一緒にいるじゃん
葉子　うん

太陽　じゃあ一緒にご飯食べるじゃん
葉子　うん
太陽　絶対あげないからね
葉子　え～なんで！
太陽　だってずるくない。葉ちゃんご飯しか頼んでないのに、大トロ食べたら、オーダーミスじゃん
葉子　え～じゃああたしも叙々苑とかにする
太陽　叙々苑ずるいでしょ。なんでもあるじゃん
葉子　大トロないよ
太陽　叙々苑なんだから大トロくらい用意しとけよ
葉子　はぁ？無茶言うなし
太陽　あー、お腹すいた
葉子　汗臭いからシャワー浴びてよ
太陽　一緒に入ろ？
葉子　入んないよ
太陽　ケチ

太陽、シャワーを浴びにいく。葉子また雑誌を読んでいる

■3

長靴を履いた女1がやってくる

女1　わたし。あし。あし。あしししししああしししし。あし。あしだけ。あししかない。あしだけのわたし

帽子をかぶった女2がやってくる

女2　わたし。ぼうし。あたま。にぼうし。わたぼうし。あたましかない。あたまだけのわたし

手袋をした女3がやってくる

女3　わたし。て。てに。ふくろ。とおして。てだし。むようの。てしかない。てだけのわたし

腹巻きをした女4がやってくる

女4　わたし。はらまき。おなかに。まきまき。まいてまかれて。おなかしかない。おなかだけのわたし

各々話しながら、各部位だけが動く。キモ可愛く見える。

と、そこへ男ーがやってきて、女たちの部位を奪って男2につけていく

女ー　わたしだけのあし
女2　わたしだけのあたま
女3　わたしだけのて
女4　わたしだけのおなか

女たち死んでしまう。男2、女たちの動きを全身でやる

■4

真っ白なワンピースを着た女の子がいる。彼女の姿はいろいろな色やフィルターが重なっていてぼやけてしか見えない
女の子は手にアイスキャンディを持っていて、おもむろに囓る。冷たい
と、彼女は反対の手で自分の目を隠す。目を隠したままアイスを食べる女の子

と、重なっていた色が点滅しだし彼女はさらにぼやけて見える
目が眩むほどの点滅。強すぎる色。色。色。フラッシュバックのよう

一瞬の暗闇。明るくなると、彼女はまだそこにいる。しかしもう、フィルターも色も重なっていない。純粋な女の子
女の子はアイスキャンディを食べながらどこかへ消える

■5

女が一人いる

女　あたし、昔猫飼ってて。飼ってたっていうか、おばあちゃんちによく遊びに来る猫がいて。メスの茶トラで、鼻の頭に三つ黒いシミがあって。名前は勝手にゴマキって呼んでました。当時モーニング娘。全盛期で、お前はめっちゃ可愛いからゴマキな、って一緒にいたお兄ちゃんがつけて。お兄ちゃんはその後野球クラブに夢中になっちゃたんでゴマキとは全然会ってないんですけど。ゴマキは中々に狡猾なやつで、大好きな煮干しをくれるおばあちゃんの膝にはすぐ潜り込むのに、あたしには全然懐かなくて。それ見ておばあちゃんはケラケラ笑ってましたね（笑）

でも、ある時からゴマキは全くおばあちゃんちに現れなくなって。あたしはゴマキが大好きな煮干しをずっと縁側で眺めてて。そしたらおばあちゃんが猫は死ぬのがわかると姿を消しちゃうんだよって教えてくれて。あたしは悲しくなってそんなわけねぇだろ、ふざけんなババアって泣きながら怒鳴って、それ見て、おばあちゃんはまたケラケラ笑ってました。そのうちあたしは高校生になって、おばあちゃんも死んじゃって、モーニング娘。はもうあんまりテレビに出なくなって、ゴマキのこともほとんど忘れちゃって。学校の昼休みにお弁当食べてたら、友達がうちのモモ可愛くない？って写メ見せてきて。そこには茶トラで鼻の頭に三つ黒いシミがある猫が写ってて。もうー4歳のおばあちゃんなの～とか言ってて

と、女、何か聞こえたのか後ろを振り向く

女　ババア、めちゃくちゃ生きてんじゃん（笑）

と、女、向き直る

女　そう思って、友達が引くくらいケラケラ笑って、その後ちょっとだけ泣きました

女、一礼していなくなる

■6

真夜中。森に囲まれた静かな湖
男が一人、ボートに乗って月を見ている
と、湖畔の方で一人の少女が月明かりに照らされて踊っているのが見える。少女は静かに、でもどこか活き活きと楽しそうに踊っている
少女に目を奪われる男
と森に風が吹く
男が一瞬森に目をやると少女はもう消えている
男はしばらく湖畔を見ているが、やがて諦めてまた月に目をやる

■7

6人の女が紐を引っ張り合って、六角形を作っている。中心には一人の男。女たちは自分の可愛いところや他の女の悪口を大声で言い合っている。男と男はハサミを取り出して、気に入らなかったり、自分の好みじゃない女の紐を一本ずつ切っていく。切られた女は勢い余って、その場で倒れてしまう。そして、最後の一本になる。女は勝ちを確信し、男の方へ振り向き、近づこうとする。そこで男は最後の紐も切ってしまう。女は倒れる

■8

彼氏が彼女とビデオ通話している。しかし、彼氏は喋らずに彼女の声だけが聞こえる（彼氏の方は文字だけ？）

彼女　もしもし
彼氏　（もしもし）
彼女　鼻毛出てるよ
彼氏　（出てないよ）
彼女　出てるでしょ

彼氏　（角度でしょ）
彼女　角度によっては出るってことじゃん
彼氏　（そっちは慣れた？）
彼氏　だいぶ？いや、どうだろ
彼氏　（やっぱ大変？）
彼女　大変だよ。何もかもが違うし
彼氏　（そりゃそっか）
彼女　そりゃそうだよ
彼氏　（それ）
彼女　ああ。（腕時計を見る）
彼氏　（つけてるんだ）
彼女　外した方がいい？
彼氏　（つけててよ）
彼女　（笑）
彼氏　（やばい眠い）
彼女　あ、ごめん
彼氏　（ううん）
彼女　そっちこそどうなの？
彼氏　（何が？）
彼女　浮気とかしてない？
彼氏　（しててもいわないよ）
彼女　え何それ。してるの？
彼氏　（してないけどさ）
彼女　じゃあ私もしていいの？
彼氏　（だからしてないって）
彼女　ホントに？
彼氏　（ホントだよ）
彼女　じゃあキスして
彼氏　（はぁ？）
彼女　早く～
彼氏　（渋々唇を突き出す）
彼女　キモ（笑）

彼氏　（はい、切りまーす）
彼女　ごめん、ごめんって
彼氏　（もう無理でーす）
彼女　え～切っちゃう？
彼氏　（・・・切らないけど）
彼女　（照れ笑い）
彼氏　（なんなんだよ。もう）
彼女　優しいじゃん
彼氏　（はぁ？）
彼女　明日も学校？
彼氏　（うん）
彼女　あ、ちょっと待って
彼氏　（？）
彼女　ルームメイト戻ってきちゃった
彼氏　（そっか）
彼女　ごめんね、また明日かけるから。大丈夫？
彼氏　（うん）
彼女　じゃあ本当ごめんね。また明日ね。バイバーイ

そこで通話は終わる。彼氏、スマホを操作する。すると、さっきと同じ画面が映し出される

彼女　もしもし
鼻毛出てるよ
出てるでしょ
角度によっては出るってことじゃん
だいぶ？いや、どうだろ
大変だよ。何もかもが違うし
そりゃそうだよ
ああ。（腕時計を見る）
外した方がいい？
（笑）

あ、ごめん
そっちこそどうなの？
浮気とかしてない？
え何それ。してるの？
じゃあ私もしていいの？
ホントに？
じゃあキスして
はい
キモ（笑）
ごめん、ごめんって
え～切っちゃう？
（照れ笑い）
優しいじゃん
明日も学校？
あ、ちょっと待って
ルームメイト戻ってきちゃった
ごめんね、また明日かけるから。大丈夫？
じゃあ本当ごめんね。また明日ね。バイバーイ

彼女の声と映像だけ。彼氏はそれをじっと見つめている。終わったらまたその映像をループする。その繰り返し

■9

男女（1番、2番、3番）が3人小さいお椀を持って、並んでいる。と女（女3）が一人入ってくる
女3の手には何か棒のようなものと、
女3、一人ずつ棒のようなもので身体検査をしていく。チェックにクリアするとお椀に麦チョコを注ぐ
麦チョコをもらった人は嬉しそうに意地汚くお椀に口をつけて、麦チョコを貪る
最後の一人、3番の身体検査をしていると、頭に反応が出る（音鳴る？）

女3は3番に合図して、お尻を棒で殴る
女3、そのままいなくなる
次に男2がやってくる。その手には棒とグミの袋
また身体検査を始め、チェックが終わるとお椀にグミを入れていく
嬉しそうにグミを食べる1番と2番
最後に男2は3番のところにくると、検査もせず合図して、お尻を棒で殴る
男2、そのままいなくなる
女4がやってくる。棒とマヨネーズを持っている
女4、1番と2番に軽く笑顔を向けて、お椀にマヨネーズを入れてあげる
ベロベロと卑しくマヨネーズを舐める1番と2番
女4は3番なんていないかのように、1番と2番愛犬を見るような眼差しで二人を見て、そのまま帰っていく
3番は1番と2番に何かくれと言うようにお椀をむける。1番と2番は気まずそうにそれを無視する。と、女4が現れて、3番を棒で滅多打ちにする
1番と2番は怖くなって、目をつむる
女4は気のすむまで3番を殴ると帰っていく
3番は死んでしまう
女3が棒と麦チョコを持ってやってくる
1番を検査し、2番を検査していると2番の頭に反応が出る

■10

アパートの一室。少し広めの1Kの部屋。歯ブラシを咥えたままの葉子がベッドにもたれて固まっている
と、太陽がトイレから戻ってくる

太陽　やばい。うんちいっぱいでた
葉子　・・・
太陽　あ、ごめん
葉子　え？
太陽　歯磨いてるのに、うんちの話しちゃった
葉子　別にいいよ

太陽　そう？
葉子　うん

太陽、寄って行き葉子の近くに座る

太陽　何見てんの？
葉子　なんかアメリカの大学生が学校で銃乱射したんだって
太陽　へえーこわ
葉子　何考えてんだろうね
太陽　いじめられてたりしたのかな？
葉子　じゃない？アメリカってそういうのキツイらしいし
太陽　へえーよく知ってんね
葉子　なんか映画とかであんじゃん
太陽　プラム？
葉子　プロム
太陽　プロムか。なんかダンスするやつでしょ
葉子　そうそう。卒業パーティーでダンスするやつ
太陽　ああいうのってやっぱカースト上のやつがいくの？
葉子　最近は上のやつは逆に行かないって聞いたけど
太陽　そうなの？
葉子　学校行事だしダセェって感じなんじゃない？
太陽　クラブ行って盛り上がった方が楽しいもんな
葉子　そうだね

葉子、口をゆすぎに洗面所へ行く。太陽、ぼーっとテレビを見ている
葉子、戻ってくる

太陽　なんか日本人の留学生も亡くなったって
葉子　まじで
太陽　うん
葉子　かわいそう
太陽　犯人自殺でしょ？報われないよね

葉子　なんか泣きそうになった
太陽　大丈夫？
葉子　うん
太陽　なんかスゲーむかつくな
葉子　うん
太陽　勝手に殺して、勝手に死ぬとかこっち何にもできないじゃん
葉子　でも、捕まえたところで反省とかしないんだろうね
太陽　うん

少しの間

葉子　この犯人もさ、事件の日の朝、普通に歯とか磨いてたのかな？
太陽　・・・かもね。人間だし
葉子　それってやっぱめっちゃむかつくね。これから人殺そうとしてる奴らが殺されそうになってる奴らと同じように過ごしてんじゃねぇよって思わない？
太陽　うーん
葉子　人殺すんだったら、やっぱり自分も人間辞めるべきじゃん？そんな奴らが歯とか磨くなよって、なんか思った
太陽　ああ、なんとなくわかったかも
葉子　人として生きたいんだったら、やっぱり人殺すんじゃなくて、ただただ人として真っ当に生きるしかないよね
太陽　めっちゃ深いこと言うな
葉子　言っちゃった
太陽　頭いいな
葉子　映画とかいっぱい見てっから
太陽　俺もいっぱい見よ
葉子　太ちゃんすぐ飽きるじゃん
太陽　長いんだもん。でも、ダイハードとかなら飽きないよ
葉子　めっちゃ人殺すじゃん
太陽　ブルースウィリスは不死身の怪物だから
葉子　確かに
太陽　今日見るやつは？

葉子　ジョニーデップのやつ
太陽　ジョニーデップも大概怪物だから

二人、立ち上がって部屋を出て映画館へ向かう

■ー1

たくさんの人が出てきて、舞台にある全てのものを真っ黒なビニールのゴミ袋に入れていく
と、男が1人でてきて話し始める

男　俺は北の果てに行く。そこで弔いの薪を積み上げて、この惨めな体を燃やして灰にする。そうすれば俺のようなものがまた作られることもない。俺は死ぬ。死ねばもう、この身を苛む苦しみを感じることもなくなる。俺を創った男は死んだ。そして俺が死ねば、俺たち二人が存在した記憶もあっという間に消えてなくなる。太陽も星も見えず、頬をかすめる風を感じることもない。光も、感覚も、意識も消える。その状態に、俺は幸福を見出せるはずだ。俺はもうすぐ死ぬ。いま感じていることも感じなくなる。この灼熱の苦しみも消えてなくなる。俺は喜び勇んで葬送の薪の山に登り、業火の苦しみに歓喜の声をあげる。やがてその焚火の火は消えて、俺の灰は風に運ばれ、海に散る。そして、俺の魂は安らかに眠る

真っ黒なビニールのゴミ袋は全て、燃えるゴミに出されてしまう

■ー2

女が来てmacbookを開く。リンゴのマークが光る。ヘッドフォンをして、enterを押すと音楽が流れ始める
渋谷の街。人工的な明かりとうるさいくらいの機械の音と音楽
女は音に合わせて飛び跳ねている。渋谷の街で、スクランブル交差点の真ん中で、ただ飛びはねている
周りの人たちは彼女に目もくれずに渋谷の街のどこかに消えていく
女の子はただ孤独に飛び跳ねている

そして音楽が終わる
女の子は少し放心して、ヘッドフォンを外し、macbookを閉じる。そして彼女も渋谷の街のどこかに消えていく

■ー3

女が一人ポツンと立っている

女　しょうがなかったんです。昨日も仕事で忙しかったから。今日は久しぶりの休みだから昼まで寝てたかったのに。母が。あれ以来、一言も口の聞けなかった母が「おはよう」って、突然起こしてきて。話があるからって、リビングに呼ばれて。面と向かって「今までありがとう。これからは自分のために生きてね」って、すごい笑顔で話しかけてきて。それで、なんて言っていいのかわからなくなっちゃって、黙ってたんですけど、そしたら職場から電話が来て、

女の携帯電話に着信が入る。静かに出る女

女　もしもし
店長　もしもし。佐藤さん？
女　・・・はい
店長　あの、突然で悪いんだけどさ、長島さんいるでしょ？今日午後からだったんだけど、なんかいきなり息子が熱出した～とか言って急にこれなくなっちゃったみたいなんだけど、今日、佐藤さん入れないかな？
女　え、でも・・・
店長　いや、休みなのはわかってるんだよ。でも、他に入れそうな人いなくて。ダメかな？
女　いや・・・
店長　でも、佐藤さん社員なんだからさ。休みって言っても、そこはお店のために働くのがさ、あのー仕事なんじゃない？
女　・・・はい、わかりました
店長　本当に！？ありがと～
女　・・・

店長　いや～、長島さんもホント困るよね。いくら子供が熱出したからってさ、お金もらってるんだから、普通来るよね？

女　・・・そうですね

店長　パートだからってなめてるんだよ。ちゃんと就職とかしたことないんだろうね。すぐ子供作って、結婚して。まともに働いたことないんだよ

女　・・・・はい

店長　ちゃんと社会に出て、ちゃんと仕事して。そういう、経験？積んでかないと。佐藤さんだって、ウチで働いて、いい経験になってるでしょ？

女　・・・はい

店長　そうじゃないと、こういう非常識なことしちゃうようになるから。佐藤さんも気をつけて

女　・・・わかりました

店長　じゃあ、1時からだから。よろしくお願いします

電話が切れる

女　・・・

母親　仕事先？

女　・・・うん

母親　なんて？

女　パートの人が急に来れなくなったから、代わりに来いって

母親　今日休みなんでしょ？

女　・・・うん

母親　・・・せっかくの日なんだし、今日くらい休めないの？

母親、固まる

女、前を向いて、

女　本当は服のデザイナーになりたかったんです。昔、好きだった女優さんが憧れのデザイナーのためにロンドンまで行くっていう番組をやってて。彼女が憧れのその服に袖を通した瞬間、あ、綺麗ってこういうことなんだなぁって思って。彼女は元々美人だったけど、その時、本当に幸せそうな顔をしていて。その笑顔がた

まらなく綺麗だったんです。それを見て、私も誰かにこんな幸せな綺麗を届けたいなって。そう思ったんです。だから、ファッションとかデザインのこといっぱい、いっぱい勉強して・・・

でも、父が自殺して、母が話せなくなったあの瞬間、私の人生は無くなりました

せっかく入れた大学も、お金がなくなって辞めざるを得なくて。でも、生きてかなきゃいけないから、やりたくもない仕事に就職して、理不尽な上司の機嫌だけとって。母の介護と仕事だけが生活を埋め尽くして。

・・・そんなことをしていたら私が憧れた、キラキラして幸せしかない綺麗はもうどこにもなくて、どうやっても手に入らなくなっていました・・・

女、母の方を見て

女

気がつくと、私は母の上に馬乗りになっていて。よくわからないけど母の顔は気味が悪いくらい腫れていて、口からは泡を吹いていました。手には母のヨダレがべっとりとついていて、気持ち悪かったからすぐに台所で洗い流して。それから冷凍庫のハーゲンダッツを食べようと思って。なのに、出したハーゲンダッツにはまた霜がついていて。それを見たらなぜかまた無性に腹が立って、転がってる母にそのまま投げつけました。でも、母はピクリとも動かなくて、そうしたら、すごく怖くなって、すぐにその場から逃げ出しました

そのあとは、ただただ家から離れたくて、ずっと、ずっと歩いていました

別に母のことは恨んでなくて、嫌ってたわけでもなくて。・・・嘘です。多分恨んでたし、嫌ってました。なんであんなことで喋れなくなってんだよって。なんで私だけがこんな目に合わなきゃいけないんだよって。・・・でも、それももうよかったんです。もうこんなつまらない生活がずっと続いていくことにもなんの不満もなかったし。私は一生、父と母を恨みながら、何にもないこんな人生を、ただ生きてようって、それでも生きてようって思ってたのに。母が、あれ以来一言も口のきけなかった母が。私のことを思ってたとか。私のことをちゃんと考えていたとか。それなのに、私は・・・

・・・全部、なくなっちゃいました。もう私には何もありません。いい加減歩くのにも疲れてきたんで、もうこれで全部終わりです。それじゃあ、さようなら

女、ただ前を見つめている

■ED

そこはどこか何もない世界。北極かもしれない。なんの音も聞こえない。長靴を履いて、帽子をかぶって、手袋をはめて、腹巻きをした怪物が一人ポツンと立っている。日が落ちていく。昼と夜の間。ピンクとブルー。怪物はゆっくりと歩き始める。不自然で不器用な歩み。けれど、怪物は必死に歩を進めようとする。死ににいくために。生き返ったら死ぬしかない。生まれたから死ぬしかない。怪物は止まろうとしない。怪物はずっと、ずっと、ずっと歩き続ける

辺りは段々と夜になっていって、そのまま怪物の姿は見えなくなる

『Frankenstain』

おしまい